

ローマ、ビジョンを確立する-その2

現代のローマと終わりの時代における預言的幻視を見極める

Jeff Pippenger

2024-07-05

また、そのころには多くの者が南の王に逆らって立ち上がる。さらに、あなたの民の略奪者たちも、幻を成就させようとして高ぶる。しかし、彼らは倒れる。ダニエル 11:14.

終わりの日に「現代のローマ」として象徴され、したがって「幻を確立する」とされるその勢力を正しく見極めることは、不可欠であり、救いに関わる。これは、十四万四千人に対する最後の試練の過程の一要素を成している。その節の「幻」という語は、神の民がなぜ滅びるのかをソロモンが指摘したときに用いたのと同じヘブライ語である。

啓示がないところでは、民は滅びる。しかし、律法を守る者は幸いである。箴言 29:18.

すべての預言者は、聖なる歴史のいかなる時期よりも、終わりの日々についてより直接的に語っており、「幻」を持つ必要についてのソロモンの警告は、生死に関わる問題である。真理は常に人々を分け、二種類の礼拝者を生み出す。その節には、滅びる人々と、律法を喜んで守る者たちとがいる。とはいえ、ソロモンの勧告は「真理」をめぐる論争の文脈に置かれていることに留意すべきである。また、このことは十人のおとめのたとえの文脈にもあり、というのも、十人のおとめのたとえは、終わりの日々における神の民の経験を示す主要な例だからである。

愚か者は心にあることをすべて言い放つが、賢い者は後までそれを抑える。
支配者が偽りに耳を貸すなら、その家臣は皆、悪しき者となる。
貧しい者と欺く者は出会う。主は両者の目に光を与えられる。
貧しい者を誠実に裁く王の王座は、とこしえに堅く立つ。
むちと戒めは知恵を与える。しかし、放任された子は母に恥をかかせる。
悪しき者が増えると、背きも増す。しかし、正しい者は彼らの没落を見る。
子を戒めなさい。そうすれば、彼はあなたに安らぎを与え、あなたの魂を喜ばせる。
啓示がないところでは民は滅びる。しかし、律法を守る者は幸いである。箴言 29:11-18

私の意図は、私とは異なる現代のローマの理解を持つ人々を非難することではない。私の意図は、ソロモンが礼拝者を二つの類型に分け、それを「賢い者」と「愚か者」として示すことだ。「愚か者」は「悪しき者」とも見なされている。たとえ話の賢い乙女と愚かな乙女は、ダニエル書十二章の預言においても、賢い者と悪しき者として位置づけられている。

多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者はいない。だが、知恵ある者は悟る。ダニエル書 12:10

ソロモンとダニエルは互いに一致している。なぜなら、終わりの日にはすべての預言的な証言が一致するからである。賢い者は「知識の増加」を理解する。

賢い者たちは大空の輝きのように輝き、多くの人を義に導く者たちは、星のように、とこしえまでも輝く。しかし、ダニエルよ、終わりの時まで、この言葉を秘め、この書に封印をせよ。多くの者が行き巡り、知識は増し加わる。ダニエル書 12:3、4。

第十節は、十四万四千人に加えられるように召された乙女たちをふるいにかける三段階の試しの過程を示している。いずれの場合にも、このふるい分けと試しの過程は、乙女たちが1989年の終わりの時に封印が解かれた知識の増加（その幻）を理解しているかどうかに基づいている。

終末における「終わりの時」は、ダニエル書11章40～45節の封印が解かれた1989年であった。その時、これらの節の主題が北の王の最終的な興亡であることが明らかにされた。また、その節に出てくる北の王が終末時代の教皇権であることも明らかにされた。靈感による記述は「現代ローマ」という表現を決して用いない。その表現は、預言的には「現代」が終末を意味するため、終末時代の教皇権を表す目的で私が作ったものである。エレン・ホワイトは「現代ローマ」という表現を一度も用いていない。

ダニエル書11章の最後の六節における北の王が誰を表すかについては誤った見解もあるが、正しい理解はただ一つである。その節々における北の王は教皇権であるという理解は、多くの預言的証言から導き出された。40節はまず、1798年に教皇権が致命的な傷を受けることを示し、続く41節から43節は、その致命的な傷の癒しに関わる過程と要因を明らかにしている。44節は教皇権を激怒させるメッセージを述べ、45節において教皇権が最終的かつ完全な終わりに至ることへとつながる。1989年に封印が解かれた幻は、終わりの時代における教皇権の最後の興隆と没落の幻である。その幻こそ、これらの節に含まれる知識を受け入れるか拒むかに基づいて礼拝者を二つの階級に生み出し、顕在化させる知識の増加である。

1989年に「知識の増大」の封印が解かれたとする、まさにその同じ章によれば、「あなたの民を略奪する者たち」は「自らを高ぶらせ」最終的に「倒れる」者であり、彼らこそが「幻」を確立する象徴である。最後のふるい分けにおいて、最初の試金石となる問いは、誰が「あなたの民を略奪する者たち」として表されているのかという点である。というのも、彼らこそが「幻」を確立する預言的象徴だからである。「略奪者たち」とは教皇権なのか、それともアメリカ合衆国なのか。

ダニエル書と黙示録は同じ書物であり、同じ預言の系統に属する二人の証人を表している。ダニエル書が始まりで、黙示録が終わりであり、両者は合わせて、1989年の終わりの時に封印が解かれる真理の二人の証人となる。

ダニエルは、ユダ族の獅子が1989年に四十節から四十五節の封印を解いたときにもたらされた清めの過程について述べている。そのとき、終わりの日に十四万四千となる契約の民を構成する「祭司」が誰であるかを見極め、明らかにするための試練の過程が始まった。ホセアはまた、終わりの日における知識の増し加わりを退ける者は、十四万四千を構成する祭司の一人とはならないと述べている。

わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、あなたをわたしの祭司とはしない。あなたが自分の神の律法を忘れたので、わたしもあなたの子らを忘れる。ホセア書4章6節。

ヨハネの黙示録は、封印が解かれ、ある一群の人々に拒絶される知識が、猶予期間が終わる直前に彼らの棄却を決定づけることを示している。

そして彼は私に言った。「この書の預言の言葉を封印してはならない。時が近いからである。不義を行う者はなお不義を行わせ、汚れた者はなお汚れたままでおらせ、義なる者はなお義を行わせ、聖なる者はなお聖くあらせよ。」ヨハネの黙示録 22:10、11

ミラー派の歴史は十四万四千人の歴史を例証しており、ミラー派と十四万四千人は共に、黙示録14章の三天使のメッセージとその働きの始まりと終わりを表している。これらの並行する歴史は、恩恵期間の終結に関わる出来事を指し示している。両方の歴史の働きは、エリヤとバプテスマのヨハネによって予型として示されてきた。

震えながら、ウィリアム・ミラーは人々に神の国の奥義を解き明かし始め、聞く者たちを預言をたどってキリストの再臨へと導いた。彼は努力を重ねるごとに力を得ていた。バプテスマのヨハネがイエスの初臨を告げ、その来臨のために道を備えたように、ウィリアム・ミラーと彼に加わった者たちも、神の御子の再臨を宣べ伝えた。『初期の著作』229、230頁。

ミラー派のメッセージは、エリヤとバプテスマのヨハネの双方に象徴される、恩恵期間の終結に関連する「出来事」を特定した。

人々が自らの危険に気づかされることが必要であり、また、猶予期間の終結に関連する厳粛な出来事に備えるよう鼓舞されることが必要であった。The Great Controversy, 310.

1989年、ソビエト連邦の崩壊に伴い、終末に関わるダニエル書の部分の封印が解かれ、試験が始まった。その試験は、ダニエル書11章の最後の6節に示されている知識の増大を、神の民が理解して受け入れられるか、あるいは退けてしまうかという点に基づいていた。これらの節は12章1節へとつながり、そこでは「恵みの時の終わり」が示されている。その後、「恵みの時の終わりに伴う出来事」のメッセージの封印が解かれ、十四万四千人の「祭司」となる候補者たちの働きが始まった。彼らの務めは、その箇所に示されたメッセージを「理解」し、宣べ伝えることだった。十四万四千人のメッセージと働きは、封印が解かれたメッセージを提示して、人々を「恵みの時の終わりに伴う厳粛な出来事に備える」よう奮い立たせるためのものだった。

「今日、エリヤとバプテスマのヨハネの霊と力において、神の任命による使者たちが、裁きに定められたこの世の人々の注意を、猶予期間の終わりの時と、万王の王・万主の主としてのキリスト・イエスのご出現に関連してまもなく起こる厳粛な出来事へと向けるよう喚起している。まもなく、すべての人は、肉体にあって行った行為のゆえに裁かれることになる。神の裁きの時は来ており、地上の神の教会の成員には、まるで永遠の滅びの瀬戸際に立っているかのような人々に警告を与えるという厳粛な責務が課せられている。全世界で耳を傾けようとするすべての人に対して、いま戦われている大いなる争いにおいて争点となっている原則、すなわち全人類の運命がそれら

に懸かっている原則を、明らかにしなければならない。」
『預言者と王たち』715、716.

バプテスマのヨハネとキリストの歴史、そしてミラー派の歴史は、十四万四千人のメッセージと働きを示している。ヨハネもキリストも、自らのメッセージが恩恵期間の終わりを表していると理解していた。

しかし、彼は多くのパリサイ人とサドカイ人が自分のバプテスマを受けに来るのを見たとき、彼らに言った。「まむしの子らよ、迫り来る怒りから逃れよと、誰があなたがたに警告したのか。」マタイによる福音書 3:7

キリストはエルサレムの滅亡を示し、それはヨハネが詭弁を弄するユダヤ人たちに差し迫っていると警告したのと同じ滅亡であった。イエスは、この滅亡を、ダニエル書12章1節でご自身がミカエルとして立ち上がる時に始まる「怒り」の象徴として用いた。

キリストは、エルサレムに、不信と反逆に硬化した世界の象徴を見、神の報いのさばきに向かって急ぎ進むその姿を見た。墮落した人類の悲哀がその魂にのしかかり、その口からこの上なく苦い叫びを絞り出させた。彼は、人間の惨めさと涙と血に刻まれた罪の記録を見、地上の悩める者、苦しむ者に対する無限の憐れみに心を動かされ、彼らすべてを救いたいと切に望んだ。だが、彼の御手をもってしても、人間の悲哀の潮流を押し戻すことはできなかった。唯一の助けの源を求める者はわずかだった。彼は、救いを彼らの手の届くところにもたらすために、死に至るまでその魂を注ぎ出すことをいとわなかったが、いのちを得るために彼のもとに来る者は少なかった。

天の威厳の主が涙を流しておられる！

無限の神の御子が霊に悩み、苦悩にうち伏しておられる！ その光景は天界全体を驚嘆で満たした。その光景は、罪のあまりの罪深さを私たちに明らかにし、また、神の律法を犯した罪ある者をその帰結から救い出すことが、無限の力にとってさえいかに困難な業であるかを示している。イエスは最後の世代を見通して、エルサレムの滅亡を招いたものと同様の欺きに世界が巻き込まれているのをご覧になった。ユダヤ人の大いなる罪はキリストを退けたことにあった。キリスト教世界の大いなる罪は、天と地における神の統治の基礎である神の律法を退けることであろう。エホバの戒めは侮られ、ないがしろにされるであろう。罪の束縛の下にある幾百万もの人々、サタンの奴隷となり第二の死に定められている者たちは、彼らの顧みられる日に真理の言葉に耳を貸すことを拒むであろう。何という恐るべき盲目！ 何という奇妙な迷妄！

『大争闘』22.

バプテスマのヨハネが、またキリストが宣べ伝えた警告のメッセージは同じ警告のメッセージであった。ちょうど、ミラー派の警告も、恩恵期間の終わりに関わる出来事を指し示す同じメッセージであり、十四万四千人が宣べ伝えるメッセージである。三人の証人—バプテスマのヨハネ、キリスト、そしてミラー派—は、十四万四千人の働きとメッセージが、1989年に封印が解かれた知識の増加によって成し遂げられる、生死を分ける試験の過程であることを証ししている。その時に封印が解かれたメッセージは、賢い者たちが十四万四千人を構成する「祭司」となるために理解しなければならない、終わりの日の幻である。もしその候補者たちがその幻を理解しないなら、彼らは悪者、あるいは愚か者と思われ、滅びる。彼らとその子どもたちは、知識の増加というその幻を拒んだことに応

じて、退けられる。

神の言葉は、ローマが、自らを高ぶらせ、神の民を奪い取り、その後に倒れて幻を確立する力であることを示している。現代のローマが教皇権なのかアメリカ合衆国なのかという問いこそが、人々が賢い乙女なのか愚かな乙女なのかを見分けるための試験である。その試験はダニエル書に由来する預言的な試験であり、その後、黙示録において確認され、完成へと至る。現代のローマという主題は、単に教皇権かアメリカ合衆国かを選ぶ問題ではなく、それは十四万四千人に対する最終試験である。これは預言的な試験であり、正しく理解されるなら、神によって聖別された預言的証言のうちに示されている最終的な試験の過程のあらゆる表象を包摂している。

バプテスマのヨハネとキリストの時代の試験の過程は、ミラー派の時代の試験の過程と同様に、ダニエル書に由来していた。予言的な試験として、真理がどのように確立されるかという方法論を受験者が正しく適用することは、現代ローマを誰と同定するかについて正しい見解を持つことと同じくらい不可欠である。現代ローマの正しい同定であれ、正しい方法論の適用であれ、その試験の両要素はダニエル書の中に織り込まれている。ダニエル書第1章では、ダニエルは食事に関することから始まり、次に外見の試験、続いて、聖書における「北の王」すなわち終末の教皇権の象徴であるネブカドネザル王によって行われた試験という、三段階の試験過程を通過した。

これら四人の若者については、神は彼らにあらゆる学問と知恵において知識と技能を授けられ、ダニエルにはあらゆる幻と夢を理解する力が与えられた。王が彼らを召し出すようにと定めていた日数が満ちたとき、宦官の長は彼らをネブカドネザルの前に連れて行った。王は彼らと語り合ったが、彼らすべての中に、ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤのような者は一人も見いだされなかった。それゆえ、彼らは王の前に仕えるようになった。王が彼らに尋ねる知恵と理解に関するあらゆる事柄において、彼は彼らが、その全王国にいるすべての呪術師と占星術師よりも十倍も優れているのを見いだした。ダニエル書 1:17-20

「日数の終わりに」-預言的には十四万四千人が試みられる終わりの時-、ダニエルと三人の友は「その全王国にいたすべての魔術師や占星術師にまさって十倍すぐれている」と見出され、ダニエルには「すべての幻と夢を悟る力」があった。ダニエルは十四万四千人を表しており、彼らは終わりの時に、ユダ族の獅子であるキリストが1989年に「終わりの時に関するダニエル書の該当部分」の封印を解いたときにもたらされた知識の増大を理解する。

ダニエルは、夢と幻に関して他の者たちより多く理解していただけては、**「すべての幻と夢を悟る知恵があった」**。彼は**「線に線を重ねる」**方法論を用いる者たちを代表している。というのも、その方法論は**「すべての幻と夢」**を一つの統合的なメッセージにまとめ上げるからである。すべての夢と幻を一つの預言的な筋道にまとめるそのメッセージは、**「恩恵期間の終わりに関連する出来事」**を特定する。そのメッセージは、自らを高ぶらせ、神の民から奪い取り、やがて倒れる力である現代ローマという預言的象徴によって確認される。

その力は正しい方法論を適用することによってのみ確立される。聖書を研究していると称する大多数の人々は、「行に行を重ねる」という方法論を退けており、それを用いていると称する者の中にも、それを構成する規則を誤って適用する者がいる。これらの規則は最初にミラー派によって公に記録され、終わりの時代の神の民には、実際に第三の天使の使者である者たちはウィリアム・ミラーの預言解釈の規則を用いることになると、あらかじめ警告が与えられている。

第三天使のメッセージを宣べ伝える働きに従事している人々は、ミラー師が採用したのと同じ方法で聖書を研究している。レビュー・アンド・ヘラルド誌、1884年11月25日。

ウィリアム・ミラーは、黙示録14章の三天使のメッセージの始まりを表しており、彼は、キリストが結末となられたそのメッセージの始まりであったバプテスマのヨハネによって象徴されていた。ホワイト夫人は、バプテスマのヨハネからキリストに至る試練の過程を、三天使の試練の過程と直接対応づけている。ヨハネがそのメッセージを始め、十字架の直前、キリストが弟子たちをカイサリア・ピリピに連れて行かれたときになって初めて、イエスはヨハネが始めたメッセージの詳細を付け加えられた。ヨハネがキリストを見たときに最初（始まり）に示した真理は、世の罪を取り除く神の小羊としてキリストを指し示すことであった。

これらのことは、ヨハネが洗礼を授けていたヨルダンの向こう側のベタバラで起こった。翌日、ヨハネは自分のところに来られるイエスを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊だ。これは私が『私の後に来られる方がいる。その方は私にまさっておられる。なぜなら、私より先におられたからである』と書いた、その方である。」ヨハネによる福音書 1:28-30。

そして、十字架で終わる三年半にわたる試練の時が始まった。十字架の直前にヨハネが殺された後、イエスはヨハネのまさに最初の言葉を説明し始めた。

イエスがピリポ・カイサリアの地方に来られたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は、人の子であるわたしをだれだと言っていますか。」彼らは言った、「ある人たちはあなたをバプテスマのヨハネだと言ひ、ほかの人たちはエリヤ、また別の人たちはエレミヤ、あるいは預言者の一人だと言っています。」

イエスは彼らに言われた、「では、あなたがたは、わたしをだれだと言ひますか。」シモン・ペテロが答えて言った、「あなたはキリスト、生ける神の御子です。」イエスは彼に答えて言われた、「ヨナの子シモンよ、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは肉と血ではなく、天におられるわたしの父です。そして、わたしもあなたに言ひます。あなたはペテロである。この岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の門もそれに打ち勝つことはない。わたしはあなたに天の御国の鍵を与える。あなたが地上でつなぐものは何でも天でもつなぐれ、あなたが地上で解くものは何でも天でも解かれる。」それから、イエスは弟子たちに、自分がキリストであることをだれにも話してはならないと命じた。その時から、イエスはご自分がエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目によみがえらなければならないことを、弟子たちに示し始められた。マタイによる福音書 16:13-21。

カイサリア・ピリピは、キリストの時代におけるパニウム（Panium）の名称であり、パニウムは、ダニエル書11章14節の次の節において、自らを高ぶらせるが倒れる「あなたの民を略奪する者たち」が登場する箇所（ダニエル書11章15節）で特定されている。靈感によって与えられ完全であったバプテスマのヨハネのメッセージは、初めの段階におけるメッセージであり、ミラーの規則に基づいて確立されていたミラー派のメッセージを表していた。終わりにおけるキリストのメッセージは、ヨハネのメッセージの上に築かれそれを拡張したものであり、ミラーの規則と、ライン・アポン・ラインという方法論が終わりに至るときにミラーのメッセージに付加される詳細に基づく、三天使のメッセージの終わりにおけるメッセージを型として示していた。

近代ローマの象徴と結び付けてその異象を確立する象徴を取り違えることは、十字架のメッセージを拒んだキリストの時代の人々と軌を一にする。私たちは、バプテスマのヨハネのメッセージを退けたユダヤ人はイエスの教えから益を受けることができなかったこと、そしてまさにそのようにしたユダヤ人たちの歴史は第一の天使のメッセージを退けた者たちを表していることを知らされている。ミラー派は、私が後に「近代ローマ」と名付けた「あなたの民の略奪者」を教皇権力であると同定した。

次回の記事でこれらの考察を続けます。